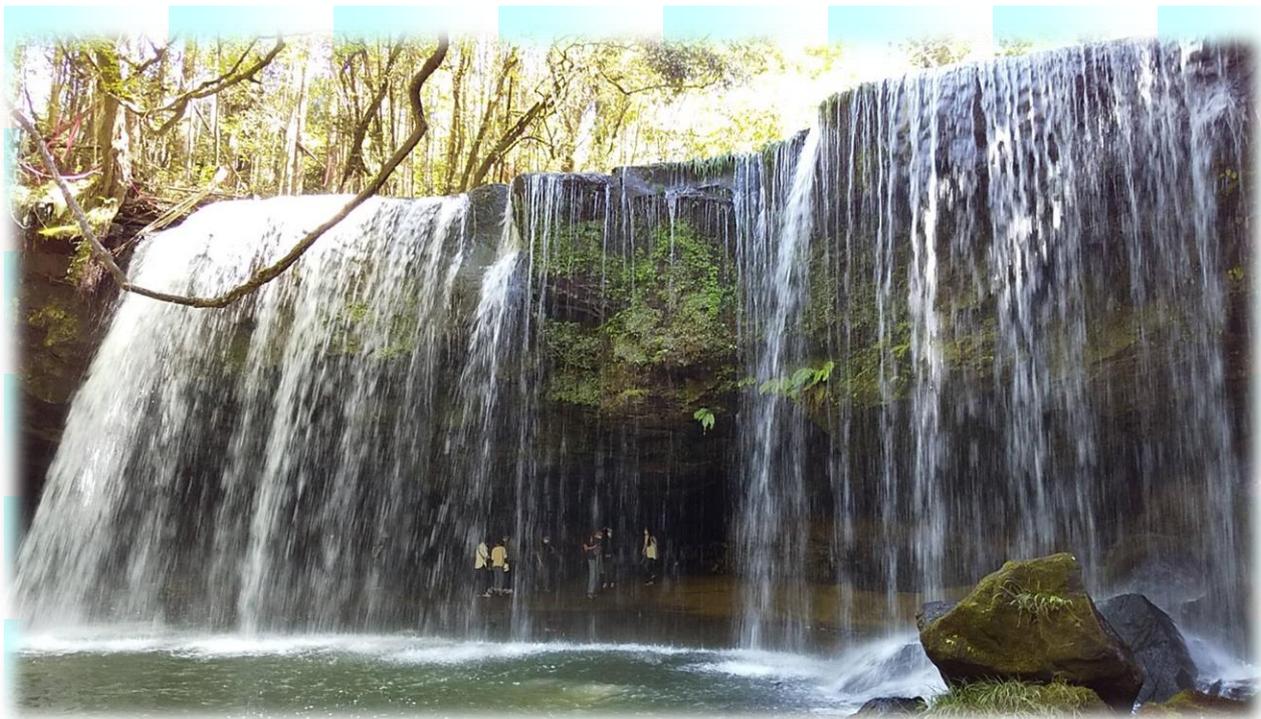


図書館だより

FEB.2024
No.94

深山書評 2023 2023 年度図書貸出ランキング



鍋ヶ滝公園（熊本県阿蘇郡小国町）
撮影：友安一夫



独立行政法人国立高等専門学校機構
都城工業高等専門学校
National Institute of Technology(KOSEN), Miyakonojo College

目 次

「宮本武蔵とバガボンド ～吉川英治と井上雄彦～」	図書館長	友安 一夫	1
「ITの発展に伴う諸変化」	一般理科	小塚 和人	6
深山書評2023受賞作品発表			9
第1席（深山賞）			
2A 荒場 空 「タンカーの行き先」			10
第2席（図書館長賞）			
2C 荒川 琴海 「奇蹟という名をつけるとき」			11
第3席（優秀賞）			
2C 寺原 実央 「ナナの想い」			12
第4席（優良賞）			
2C 櫻木 心夏 「『天国からの宅配便』を読んで」			13
深山書評2023 取り上げられた作品の紹介・表彰式の様子			14
2023年度図書貸出ランキング			15
新着図書を紹介			17
トピックス・編集後記			19

宮本武蔵とバガボンド ～吉川英治と井上雄彦～

図書館長 友安 一夫

図書館に時々来られている人であれば記憶の片隅に残っているかもしれませんが、昨年4月頃、「宮本武蔵」(全8巻)が廃棄本のコーナーに置いてあるのに目が留まりました。宮本武蔵の名前は巖流島¹で佐々木小次郎と決闘した武芸者ぐらいの知識しか持ち合わせていなかったのですが、この吉川英治の「宮本武蔵」は数年前から秘かに気になっていた小説でした。吉川英治は戦前から戦後にかけて活躍し、特にこの「宮本武蔵」は大衆小説の代表作と呼ばれるほど当時人気を博したようです。実はこの代表作を生み出すきっかけが直木三十五と菊池寛による宮本武蔵の強さに関する論争²でした。直木は非名人説、菊池は名人説を支持しており、直木は吉川に対してどちらの説を支持するか尋ねたそうです。吉川は菊池説を支持すると表明したため、直木から菊池説を支持する理由を公表するよう迫られたようですが、吉川は沈黙を守ったそうです。ただ、吉川は沈黙の数年間を経て日中戦争から太平洋戦争に向かう最中の1935年～1939年の4年間にわたり、この「宮本武蔵」を朝日新聞で連載しました。当時は200回ぐらいで終わることを前提として連載が始まったそうですが、編集部予想に反して人気を博し、終わってみれば1000回を超える大作となったと



熊本市武蔵塚公園の
宮本武蔵像
(2024年2月友安館長撮影)

¹ 関門海峡の上り車線から見て左手にある平らな島で正式名称は船島

² 1932年

いう経緯³があるようです。

少し脱線しますが、週刊誌の少年ジャンプに連載されていた「SLAM DUNK」を知らない人は多分いないと思います。説明するまでもないかと思いますが、井上雄彦の代表作、というよりもジャンプの代表作といった方がよいのかもしれませんが、実際、1995年3・4号で653万部の歴代最高部数を達成したときの巻頭カラーを飾っていたのがこの「SLAM DUNK」だったことから伺えます⁴。さらにこの勢いは止まらず、1996年の連載終了から26年半を経て公開された映画「THE FIRST SLAM DUNK」はロングランとなっていたことは皆さんの記憶に新しいところではないでしょうか。さて、この人気漫画「SLAM DUNK」の連載終了後に作者の井上雄彦が連載を開始した「バガボンド」という漫画があります。バガボンドはフランス語で「vagabond」と書いて“放浪者”だったり“漂泊者”という意味の言葉です。「バガボンド」とタイトルはフランス語ですが、中身は江戸時代初期に活躍した武芸者宮本武蔵を題材とした漫画です。実はこの漫画の種本がこの吉川英治の「宮本武蔵」なのです。私はある友人からこのことを聞き、何故か忘れられずに気に留めていました。その友人も数年前他界し、そのこともあってかこの「宮本武蔵」に惹かれるようになりました。そんな折に図書館の廃棄本のコーナーに「宮本武蔵」が置いてあるのに目が留まったのです。こうなるともう読まざるを得ないと腹をくくりました。9月から読み始めて足掛け5カ月、先月下旬にようやく読み切ることができました。

この吉川英治の「宮本武蔵」は実は多くの部分で創作であることが知られています。ただ、その旅路の風景の描写は見事で、特に自然の繊細な描写が戦いの場での臨場感を与え、所謂、ハラハラドキドキの連続でした。そんな展開が断続的に何度か続くうちに、これもパブロフの条件反射の類かもしれませんが、武蔵がある戦いの場に身を躍らして出てきたときのこと、思わず心の中で「武蔵がきた！」と叫びました。それぐらい、この「宮本武蔵」に引き込まれていました。吉川英治の「宮本武蔵」は文章からあふれ出る表現が古き良き日本

³ Wikipedia「宮本武蔵 (小説)」を参照

⁴ Wikipedia「SLAM DUNK」を参照

の原風景を脳裏に描かせ、宮本武蔵とその取り巻きの人々が西に東にと旅をしながら物語が動いていくのです。さて、「バガボンド」の種本であったこの「宮本武蔵」が連載されていた当時は所謂、漫画の類はなく、娯楽の少ない時代でした。こんなことを SNS に書こうものなら、今どきは所謂炎上するかもしれませんが、この時代にあって「宮本武蔵」は現在で例えるなら少年ジャンプの人気漫画に匹敵していた状況だったと思うのです。最近では諸説あるようですが、ジャンプに掲載される漫画は「友情・努力・勝利」のうち、少なくとも一つの要素かその関連要素を有する必要があると言われていています。これに対し「宮本武蔵」は1つどころかジャンプの掲載要件を全て備えている作品です。乱暴な紐づけかもしれませんが、ある意味ジャンプに掲載された金字塔が「SLAM DUNK」であれば、朝日新聞の連載小説の金字塔が「宮本武蔵」だと思うのです。

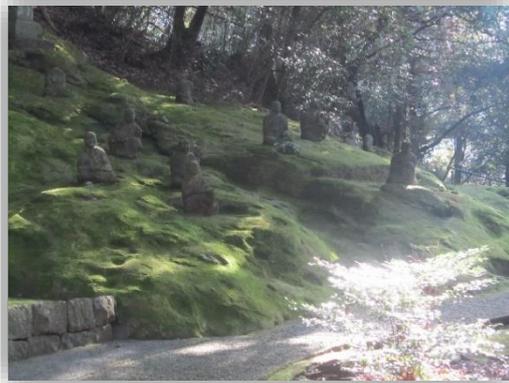
「バガボンド」は「宮本武蔵」を種本として描かれているのですが、登場人物の設定や、物語の展開に関して井上雄彦が独自の創作を加えている一方、単行本は現在 37 巻で発行が止まっています。連載も何度かの休載を経て直近では 2015 年の 2 月の掲載を最後に休載となっています。吉川英治の「宮本武蔵」を読んでしまった私からすると、佐々木小次郎との巖流島での決闘の「バガボンド」での落としどころが気になるのです。こんなことを考えていると井上雄彦はどのような人物なのか気になってくるわけです。井上雄彦は鹿児島県伊佐市（旧大口市）出身で、鹿児島県立大口高校に通っていたようです⁵。このことを知ったとき、私のラグビー部顧問 18 年目の苦い記憶がふと蘇りました。それは高専大会前の 10 月のとある週末です。巷の高校のラグビー部は花園予選前でチーム総仕上げの時期なのですが、高専も翌月に迫った九州地区高専大会に向けて同じく総仕上げの時期でした。このときは鹿児島県内の高校ラグビー部 3 校⁶が大口高校に練習試合のため集結し、本校ラグビー部もその中に飛び入りで参加させてもらいました。しかし、思うような結果が出ないどころか先方にまで迷惑をかけてしまったのです。この時の記憶が走馬灯のように脳裏に浮かんだ

⁵ Wikipedia「井上雄彦」を参照

⁶ 鹿児島県立大口高等学校、鹿児島県立加治木工業高等学校、鹿児島情報高等学校

とき、大口高校に井上雄彦が重なり、その瞬間、「戦わずして破れたり」と武蔵に看破されたような気がしました。この脳裏に去来した苦い記憶を故人とまた話したかったと思うのです。きっとその友人は、ガッハツハと豪快に笑い「確かにそうですね。」と言ってくれた気がするのです。

朝日新聞での「宮本武蔵」が連載を終了してから約 85 年、現代においても未だ色あせない宮本武蔵に惹かれ、『五輪書』⁷を宮本武蔵が書いた場所と伝えられている熊本市近郊の岩戸『靈巖洞』へ訪れてみました。ここは武蔵没後百数十年経った頃、淵田屋儀平という商人により靈巖洞に至る小道の斜面に五百羅漢が安置され、所謂パワースポットの趣があります。その小道を通り過ぎ最後に鎮座する石塔群をすぎると靈巖洞が突如現れます。今となっては約 380 年前のことですが、宮本武蔵が『五輪書』をこの岩戸で書いていたと思うと時代の移ろいの侘しさを感じつつ、それでも人を惹きつけて止まない武蔵の魅力を感じられた気がしました。



雲巖禅寺の五百羅漢
(以下4枚すべて2024年2月友安館長撮影)



五百羅漢は淵田屋儀平により1779年～1802年の24年間をかけて奉納された。

⁷ 1643年～より靈巖洞で執筆を始める。



霊巖洞入口前の石塔群



霊巖洞



←吉川英治 著『定本 宮本武蔵 全』

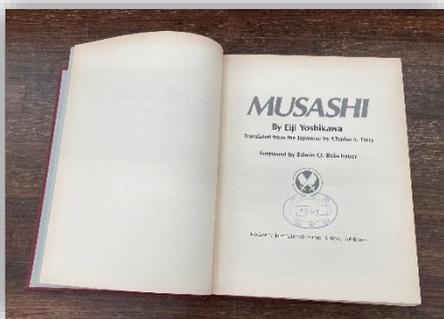
(開架書庫 書架番号 26 に配架)

昭和 58 年初版発行。日本画家の東山魁夷をはじめ
3名の画家が題字や挿絵などを手掛けています。

吉川英治 著『宮本武蔵 (一) ~ (八)』

(開架書庫 書架番号 18 に配架)

英治没後の発行にあたり、英治の妻である吉川文
子がメッセージを寄せています。



←Eiji Yoshikawa 『MUSASHI』

(閉架書庫 I F に配架)

アメリカの翻訳家 Charles Sanford Terry が英訳
を手掛けました。初版は昭和 56 年。

本校図書館に所蔵されているものはカバーが外さ
れた状態となっているためご覧いただけません
ですが、迫力のあるカバー表紙となっています。気
になる方はぜひネット検索してみてください。

「IT の発展に伴う諸変化」



一般理科（数学） 小塚 和人

平成元年4月1日に本校に赴任し、令和4年3月に定年退職、その後2年間の再雇用を経て本年3月に本校での35年間の教職生活を終えることになりました。

この期間に、パソコン、インターネット、スマホ等が急速に普及・発展し、IT時代と呼ばれる時代の流れ中で私の仕事のスタイルも大きく変化しました。その足跡を振り返ってみたいと思います。

赴任当初は研究室にコンピュータもなく、またそれで何の不自由もありませんでした。授業用の教材は下のようなもので、試験問題作成、欠課・成績伝票作成等すべて手書きで行っていました。

微積分学Ⅱ 演習く微積分学Ⅰの復習(白)

① ② の関数を微分せよ

$$\textcircled{1} \quad y = x^2 - 4x^3 + x^4 \quad \textcircled{2} \quad y = x + \frac{x^2}{2} \quad \textcircled{3} \quad y = \frac{x^2 + x + 1}{3} \quad \textcircled{4} \quad y = x^2 - \frac{x}{5} + \frac{1}{2}$$

小塚先生お手持ちの資料より一部抜粋

研究面について大学院生の頃からの記憶を辿ると、修士論文は手書きの原稿を提出という時代で、学会講演アブストラクトやシンポジウムの講究録も手書きの原稿が大半を占めていました。専門誌への論文投稿では、ワープロで活字にした原稿を郵送することになっていましたが、印刷所の職員が数式やギリシア文字等を区別しやすくするため、下記のように原稿に色鉛筆でいろいろ書き

込むことが要求されていました。

Let χ be a Ω_p -valued Dirichlet character with conductor f_χ , where Ω_p is the completion of the algebraic closure of the rational p -adic field \mathbb{Q}_p . For a prime p , let $q = p$ or $q =$

小塚先生お手持ちの資料より一部抜粋

博士課程の3年目頃、PC98シリーズの普及と共に、数学論文作成には「久保ソフト」等が普及し始め、私もこのソフトで論文の原稿を作成するようになりましたが、その出来栄はワープロと大差ありませんでした。赴任当初は、博士論文の作成に取り掛かった頃でもあり、PC98シリーズのコンピュータを購入しましたが、研究以外の仕事に使用することはほとんどありませんでした。

本校の校内ネットワークの本格的な出発については、平成8年度の学園だより第56号に「平成8年4月30日にMacintoshが、教官・技官及び実習工場と事務の各係に1台ずつ配布された」との記載があります。この頃からコンピュータを使う仕事が増えるようになったようです。同じ頃、複雑な数式作成にも抜群の機能を持ったソフト「TEX」が普及し始め、論文作成は、久保ソフトからTEX利用へと移行するようになりました。

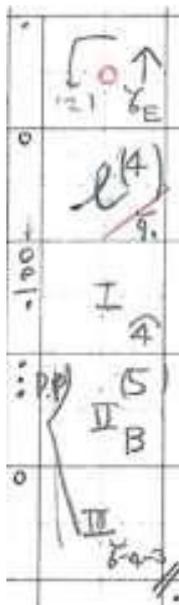
教育面では、私は手書きにも愛着があったので、手書きとコンピュータ利用を併用する期間が長く続きました。現在の本校の若手数学教員は皆、学生時代にTEXを使用して論文を書いてきた方々ばかりで、数学の試験問題もTEXで作成したものを保存、共有するようにしています。

その他、大学図書館の書庫で長時間過ごさなくても、Webで多くの文献を検索しダウンロードできるようになったことや、令和2年度以降のオンラインシステムの導入等。ITの発展による仕事の変化には計り知れないものがあると感じています。

その一方、私の専門の研究方法は、紙と鉛筆を使っただけの昔ながらの方法であり、費やした時間に比例して研究成果が出るというものでもなく「効率化」という言葉とは全く無縁ですが、それが私にとって研究の魅力でもあります。本校での長い勤務生活の中で、そのような時間も持ち得たことに感謝したいと思っています。

最後に課外活動について書いておきます。

本校赴任後最初の3年間はバドミントン顧問、その後平成31年度まで野球部、その後2年間は陸上部顧問を担当しました。野球部顧問を担当していた頃は、左記のようなスコア記入をしたことが多くありました。このスコア作成に関しても現在では、電子化の方法が開発され、スマホでスコアアプリを入手することもできます。宮崎県高野連の動向について、本校野球部監督の笹谷先生にお伺いしたところ、現在はコンピュータと手書きを併用中で、今後、本格的な電子化導入に向けて研修会を実施しているとのことでした。



小塚先生の
手書きスコア
より一部抜粋

試合の流れの詳細を記録する点ではどちらの方法でも労力に大差がないかもしれませんが、コンピュータでスコアを入力すれば、試合後の集計作業の手間が激減し、過去のデータも含めた多種多様なデータ分析も可能になりそうですので、それが今後、野球の指導法や興味、関心のあり方等にどのような影響を与えるのか、注目したい所です。

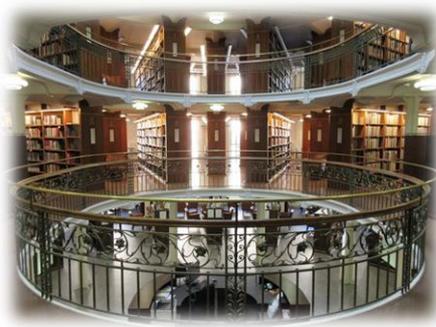


せかいのとしよかん



「RETRIP」より by makoi

ピョルマダン図書館（韓国）



「RETRIP」より by sunnybaby

フィンランド国立図書館（フィンランド）

深山書評 2023 受賞作品発表



今回で11回目を迎えた深山書評。着実に回数を重ねています。

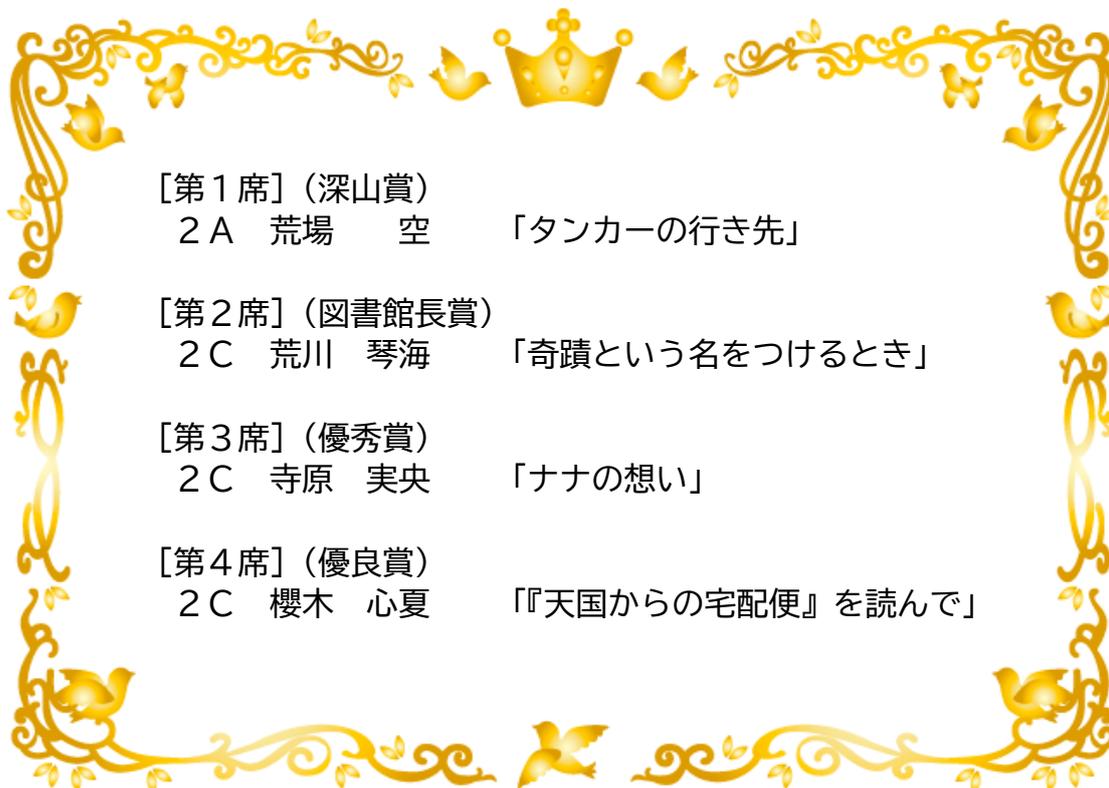
これまで学生図書委員の4・5年生が審査をしていましたが、今回は3・4年生が審査員となり、昨年末からの冬季休業中に厳正な審査を行いました。

審査の結果、入賞されましたのは以下の皆さんです。おめでとうございます。

1月19日に行われました表彰式の様子もあわせてご覧ください。

ご応募いただいた学生のみなさん、ありがとうございました。

ご支援くださいました国語科の先生方、ありがとうございました。



深 山 賞

「タンカーの行き先」

(中野量太『浅田家!』)

建築学科2年 荒場 空

三重県は津市、津松阪港にほど近い家に住む父、母、兄、弟の4人家族がこの話の主人公。

この小説で面白いのは父と次男の関係性ではないかと思う。

序章では専業主夫の父と学校の机で亀を飼う次男の日常が描かれている。ページを捲っていくごとにその関係性は変化を見せていく。あるときは撮影者の父と被写体の息子、あるときは新たなステージを応援する父と応援される息子といった具合に。

現代社会において、「写真を撮る」ということ期抵抗やためらいを持つ人は少ないだろう。だからこそこの本に出てくる言葉に驚く。

「もし、一生にあと一枚しかシャッターを切れへんとしたら、浅田よ、お前は何を撮る？」

大切な人、大切なもの、思い出に残る景色など撮れるものはたくさんある。

だからこそ私は何を撮るだろう？

これは現在も現役で活躍されているカメラマンの浅田政志さんの半生を描いた小説だ。登場人物同士のコミカルでクスツと笑える会話もあれば、それぞれが理想と現実に悩む描写もある。まさに笑って泣ける物語だ。

2020年に映画として公開された作品で原作は監督の中野量太氏。

もちろん266ページを読むよりも2時間近い映像で楽しんだほうがハードルは低いし、時間もかからない。しかし敢えてこの本で、景色、人の声、周りの音、漂う匂いまでを想像してほしい。

日本映画界を牽引する中野監督と木村伊兵衛写真賞受賞のカメラマン浅田政志氏のタッグで作られたこの作品。多くの人が見ていたであろう某鬼退治系映画のとなりで上映されていたこの実話をぜひ文字で楽しんでほしい。

図書館長賞

「奇蹟という名をつけるとき」

(宇山佳佑『君にささやかな奇蹟を』)

物質工学科2学年 荒川 琴海

自分の為だけに生きるというのは案外難しいことなのかもしれない。誰しも多かれ少なかれ、誰かの為にと頑張ることがあるだろう。しかし、人の為にと行動し結果として自分も幸せになるのであれば、それは自分の為であるともいえるだろう。自分も他人も幸せへと導く行動ができるならば、それはとても素敵なことだ。

私が紹介したい物語に登場する中で最も素敵なのはサンタクロースだ。そう、これは紛れもない現代を生きるサンタの話である。今あなたが想像したサンタで間違いない。いや、少しだけ違うかもしれないが、きっと誤差なので言わないでおこう。

サンタである彼は結婚をするため、ある女性に交際を申し込むが、その姿勢は笑えるほどひどいもので、断られ続けていた。彼女は夢を失い、今の自分に自信が持てずにいたが、彼が自分の為にと走り回る姿を見て、戸惑いながらも少しずつ変わっていく。一時ハッピーエンドかと思いきや、新たに訪れる試練。二人はどう乗り越えていくのか、最後まで見届けてほしい。

この世は奇蹟の連続で、計り知れない数の偶然で成り立っている。一番身近に感じられる奇蹟は、やはり人との出会いであると思う。何かの拍子に人生が一変するようなときも、傷つくときも癒されるときも、その何かは必ず人が運んでくるものだ。そんな奇蹟に気付けたのなら、これまでのあなたの世界が少し広がるかもしれない。

人と出会いあなたの中で何かが動いたとき、それは同じような毎日を生きる自分に新たに色を見つける瞬間なのだろう。この先にどんな奇蹟が待っているかなんて、神様だろうとサンタクロースだろうと分かりはしないのだ。それなら私は少しだけ前を見て、奇蹟に微笑む日を待っていようと思う。

優 秀 賞

「ナナの想い」

(有川浩『旅猫レポート』)

物質工学科2学年 寺原 実央

一般的に、猫の知能は一歳半から二歳半の子ども程度で八十語ほどの単語を聞きわけることができるといわれています。しかし、この本には猫の一般常識をこえた、人間の言葉を完璧に理解する賢い猫が登場します。

冬のある夜、一匹の誇り高く賢い野良猫は不運にも交通事故に遭い、けがをしていました。そんな野良猫を近所の猫好きの青年、サトルが助け、「ナナ」と名付けて飼い始めるところから物語はスタートします。一緒に暮らして五年経った頃、ある事情によりサトルはナナを手放すことにします。ナナのもらい手を見つけるため、サトルは小、中、高の友人たちのもとへナナを連れて旅をします。サトルの懐かしい思い出とともに少しずつわかっていくサトルの事情。サトルはなぜナナを手放すのか。一人と一匹の深い絆がこの本には描かれています。

この本は、サトルではなくナナ目線でかかれています。そのため、ナナがどんなことを思いながら人間と触れ合っているのかよくわかります。ナナとサトルの少しずれたやりとりが面白かったり、ナナのサトルを大切に想う気持ちに胸がいっぱいになったりします。

ずっと一緒にいたいのにナナのもらい手をさがすサトル。手放したくないサトルの気持ちをわかってサトルのそばに居続けようとするナナ。「サトルの猫になれるなんて、僕は世界中で一番幸せな猫だった。」そんなナナの想いはサトルに伝わったのでしょうか。

二〇一八年に実写映画化されたこの本は、作者の有川浩自身が「一生に一本しか書けない物語」と語っています。サトルとナナの旅の結末をぜひたくさんの人に見届けてほしいです。

優良賞

『天国からの宅配便』を読んで」

(柊サナカ『天国からの宅配便』)

物質工学科2年 櫻木 心夏

私がこの本を手に取り、読んでみようと思ったのは『天国からの宅配便』という題名を見たときに、亡くなった人が大切な誰かに天国、空からプレゼントを渡すというお話を想像し、どんな風に何を届けるのか気になったからだ。

この本は、第一話から第四話までのお話とエピローグで構成された短編集だ。私はこの中で第四話の「最後の課外授業」が一番印象に残った。地味で真面目な大学生、長部彩香は真面目にノートを取っていることが加点されて華やかな女の子たちのグループに所属していた。ある日突然、天国宅配便の七星律と名乗る人物に声を掛けられ手紙を渡された。天国宅配便とは、遺品を届けるという仕事だそうだ。差出人はサイエンス部顧問の真田光彦先生だった。高校の時にしていた部活だが、なんにもしたくない生徒となんにもやりたくない教師の利害が一致してできたような、特に思い入れのない部活だった。渡された手紙は五通あり、成人のお祝いに最後の課外授業をする約束をはたすという内容だった。長部宛ての手紙には、準備物に砂糖と書かれていた。残りの四通は部長だった長部が部員に届けることを望んだ真田先生が天国宅配便に頼んでいた。二人目の部員、黒瀬孝弘。準備物、子供用のビニールプール。三人目、池田尚子。準備物、大風呂。四人目、福家ハルカ。準備物、カメラと三脚。五人目、若松修一。準備物、手袋。

それぞれの準備物の意味、真田先生が何をしたかったのか。なぜ、亡くなる前に直接渡すことではなく天国宅配便に託すことを選んだのか。考えながら読み進めていくとおもしろい。天国宅配便が本当に存在するとしたら、私は誰に何を届けてもらうのだろうかと思像することもおもしろかった。

一話あたり五十ページほどの短編集で小説を読むことが苦手な人でも手に取りやすいと思う。ぜひ、読んでみてほしい。

深山書評2023

取り上げられた作品の紹介

柘サナカ	『天国からの宅配便』
細田守	『バケモノの子』*
宇山佳佑	『君にささやかな奇蹟を』
有川浩	『旅猫リポート』*
中野量太	『浅田家!』
杉井光	『世界でいちばん透きとおった物語』*

※順不同にて掲載しています。

*：本校図書館に蔵書があります。

表彰式の様子

表彰式は1月19日（金）昼休みに開架書庫にて行われました。
 図書館長 友安先生より受賞者の皆さんへ賞状と副賞の図書カードが授与され、
 図書委員長 抜木和哉さんからお祝いのメッセージが伝えられました。
 なお、副賞の図書カードは、本校後援会よりお贈りいただきました。ありがとうございました。



2023年度 図書貸出ランキング

2023年度の貸出ランキングを見ますと、皆さんの勉強に励む様子がかがえました。専門科目の研究や一般科目の学修、編入学試験対策、資格取得のためと思われるタイトルがほとんどを占めていました。自粛生活から再び変わり始めた今年度も、皆さんよく頑張りました。来年度もたくさんの本を借りてください。

専門科目の図書

全体の順位	貸出回数	タイトル	著者
1	35	分析化学 改訂増補版	阿藤質
2	16	三省堂新化学小事典	三省堂編修所[編]
3	12	競技プログラミングの鉄則：アルゴリズム力と思考力を高める 77 の技術	米田優峻
5	7	分析化学演習	澁谷康彦[ほか共著]
5	7	図でよくわかる電磁気学	伊藤彰義[編著]
5	7	電磁気学の基本 66	土井淳
5	7	定性分析化学	高木誠司
5	7	スッキリわかる Python による機械学習入門	須藤秋良
5	7	はじめての集合と位相	大田春外
5	7	真空技術	石井博
18	6	一度読んだら絶対に忘れない化学の教科書	左巻健男
18	6	分析者のためのデータ解釈学入門:データの本質をとらえる技術:Data hermeneutics	江崎貴裕
18	6	ビジネスデザインのための行動経済学ノート:バイアスとナッジでユーザーの心理と行動をデザインする	中島亮太郎
18	6	本質を捉えたデータ分析のための分析モデル入門:統計モデル、深層学習、強化学習等用途・特徴から原理まで一気通貫!	杉山聡
18	6	定性分析:常量法	鈴木進
18	6	基礎物理学演習	永田一清
18	6	乱流の数値流体力学:モデルと計算法	大宮司久明
18	6	電気回路論	平山博
18	6	RとPythonで学ぶ実践的データサイエンス&機械学習	有賀友紀

資格・進学・就職の図書

順位	貸出回数	タイトル	著者
5	7	スバラシク実力がつくと評判の線形代数キャンパス・ゼミ:大学の数学がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる!	馬場敬之
5	7	編入数学徹底研究:大学編入試験対策:頻出問題と過去問題の演習	桜井基晴
5	7	スバラシク実力がつくと評判の微分積分キャンパス・ゼミ:大学の数学がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる!	馬場敬之
5	7	編入の線形代数徹底研究:基本事項の整理と問題演習	桜井基晴
18	6	「10日で受かる!」乙種第4類危険物取扱者すいと合格	本山健次郎
18	6	TOEIC テストボキャブラリープラチナ 5000:イラスト&ストーリーで忘れない	ジャパンタイムズ&日本アイアール[編]
18	6	TOEIC L&R テスト文法問題でる 1000 問	TEX 加藤

文芸書などの教養図書

順位	貸出回数	タイトル	著者
4	8	自由なサメと人間たちの夢	渡辺優
5	7	アンドロイドは電気羊の夢を見るか?	フィリップ・K・ディック
5	7	銀河英雄伝説 1:黎明篇 - 10:落日篇	田中芳樹
18	6	そして誰もいなくなった	アガサ・クリスティー
18	6	君と、眠らないまま夢をみる	遠野海人

*こちらのランキングは、2023年4月1日から2024年1月31日までの間に貸し出された図書のトップ50タイトルをまとめたものです。

*図書館システムの更新に伴い、同じタイトルの貸出冊数を取りまとめる機能がなくなったため、複数所蔵している同タイトルの貸出冊数については、トップ50の中に入ったものを集計いたしました。

新着図書の紹介

年末年始は来年度の就職活動に向けた各種就活本が充実する時期です。今年もSPI対策本を中心として就職活動用の本を揃えました。なかなか手が伸びづらい方もいるかもしれませんが、どの本も読みやすく分かりやすい構成となっていますので、気負うことなく手に取ってみてください。

また、文芸書も年始の芥川賞・直木賞受賞作品発表にはじまり、2月の本屋大賞ノミネート作品発表と、この時期は様々な作品がニュースをにぎわせます。随時配架していく予定ですので、時々新着図書のコーナーを眺めてみてください。

それから、三オブックスの「世界でいちばん素敵な教室」シリーズが計40冊揃いました。文字を追うことに疲れた方も楽しんでいただけるビジュアル図鑑となっています。目の保養にもおすすめのシリーズです。

新着図書コーナーに配架された本の一部を以下に紹介します。他のコーナーに配架されている本も、背表紙に赤いシールが貼ってある本は新着図書です。この●シールを目印に新着図書を探してみてくださいね。

新着図書（資格・就職）	
これが本当のSPIだ！：主要3方式<テストセンター・ペーパーテスト・WEBテスト>対応 2026年度版	SPIノートの会[編著]
SPI3&テストセンター出るとこだけ！完全対策 2026年度版	就活ネットワーク[編]
0からわかるSPI3の教科書これさえあれば。 2026年度版	就活塾ホワイトアカデミー採用テスト対策室
一般常識&最新時事一問一答<頻出1500問><'26>	角倉裕之
朝日キーワード就職：最新時事用語&一般常識 2025	朝日新聞出版[編]
最新！SPI3【完全版】 2024年度版	柳本新二
理工系×企業ジョブマッチング：スキルを活かす！ 2025年版	日刊工業新聞特別取材班[編]

新着図書（文芸書）	
東京都同情塔	九段理江
ともぐい	河崎秋子
八月の御所グラウンド	万城目学

新着図書（小学館 Youth Books）	
「さびしさ」の正体	和田秀樹
「バイアス社会」を生き延びる	中野信子
なぜ学ぶのか	出口治明

新着図書（世界でいちばん素敵な教室シリーズ）※10冊のみ抜粋	
世界でいちばん素敵な文様の教室	伊藤俊治
世界でいちばん素敵な源氏物語の教室	吉海直人
世界でいちばん素敵な哲学の教室	平原卓
世界でいちばん素敵な物理の教室	滝川洋二
世界でいちばん素敵な化学の教室	齋藤勝裕
世界でいちばん素敵な栄養素の教室	飯田薫子
世界でいちばん素敵な単位の教室	丸山一彦
世界でいちばん素敵な建築の教室	田所辰之助／川嶋勝
世界でいちばん素敵な SDGs の教室	小林亮
世界でいちばん素敵な花と草木の教室	稲垣栄洋



新着図書コーナーの書架の様子

【トピックス】

ホワイトボードご活用ください

昨年10月より第2閲覧室とICT自習室に、縦型のホワイトボード10枚を新たに設置しました。このホワイトボードは、コロナ禍に他の施設でパーテーションとして使用されていたものです。これまでも横型のホワイトボードを3枚設置していましたが、多くの学生の皆さんが学修（特に定期試験前）で活用されていたので、設置枚数を増やすことにしました。先日実施されました学年末試験の際も、こちらのホワイトボードが活躍していました。期間中はマーカーの減りも早く、何本ものカートリッジを取替えてくれた学生もいました。これからもどうぞご利用ください。（使用後は文字を消すこともお忘れなく…。）



編集後記

○今号には、今年3月にご退職されます一般科目（数学）の小塚和人先生にご寄稿いただきました。原稿作成の過程では何度も図書館に足をお運びいただき、レイアウト見本を作成いただくなどしました。この場を借りてお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

○漫画が読み物として広く浸透して久しい現在、公立図書館をはじめ多くの図書館で漫画が配架されるようになりました。九州内の各高専図書館も漫画を配架しています。巻数が多くなりがちな漫画はなかなか配架が難しいのですが、それでも館内に配架できれば、と様々な検討を重ね、この度『鬼滅の刃』の洋書版『DEMON SLAYER』全23巻（配架場所：回転書架）と『風の谷のナウシカ』全7巻（配架場所：新着図書）を配架しました。こちらが来館や本を読むことのきっかけのひとつとなってもらえたら、と願っております。

○深山書評の今年度の審査は、3年生と4年生が担当したことにより、低学年生と高学年生の視点が相まって、より高専らしい審査となったのではないかと思います。今回で11回目となった深山書評。応募作品数が少ないことに苦慮することもあります。図書委員の皆さんの工夫により、これからも回数を重ねていってほしいと思います。

